

令和6年度主要商店街歩行者通行量調査結果の概要

- ・ 目的： 鹿児島市の主要商店街における歩行者の流れや特徴を把握し、その分布状況及び動向を比較分析することにより、今後の商店街活性化を図っていくための基礎資料とする。
- ・ 調査箇所： 市内主要商店街の 158 地点（前回調査同様）
- ・ 調査日： 令和6年10月17日（木）（日中調査：149地点、日中から夜間調査：15地点、夜間調査のみ：9地点）
令和6年10月19日（土）（
令和6年10月20日（日）（日中調査：149地点）
（注）日中調査：8:00～20:00、夜間調査：20:00～翌1:00
- ・ 調査対象： 調査地点を通行する中学生以上の歩行者及び軽車両通行者

1. 全体の状況

前回調査（令和4年度）と同様に158地点を調査した。

各地点の通行量を前回と比較すると、平日は81地点が増加、92地点が減少、土曜日は74地点が増加、99地点が減少、日曜日は112地点が増加、37地点が減少となっている。（表1参照）

同様に総歩行者通行量を10地区別で比較すると、日中については、平日は3地区で増加、7地区で減少、土曜日は5地区で増加、5地区で減少、日曜日は7地区で増加、3地区で減少となっている。

夜間については、平日は、1地区で増加、1地区で減少、土曜日は1地区で増加し、1地区で減少となっている。（表2参照）

次に曜日別（日中）で見ると、日曜日の通行量（342,618人）が最も多く、次いで土曜日（312,216人）、平日（242,001人）の順となっている。（表3参照）

2. 地区別の状況

各地区の日中の総歩行者通行量を前回と比較すると、3日間とも増加した地区は、上町地区、谷山地区で、3日間とも減少した地区は、鹿児島中央駅周辺、草牟田地区で特に草牟田地区の減少が大きかった。

平日は、上町、真砂、谷山地区、土曜日は、中央、上町、騎射場、脇田、谷山地区、日曜日は、中央、上町、西田、騎射場、脇田、伊敷、谷山地区が増加しており、平日の谷山地区、日曜日の中央、上町、伊敷、谷山地区の増加率が大きかった。減少した地区の中で、平日は、中央、鹿児島中央駅周辺、西田、騎射場、脇田、伊敷、草牟田地区、土曜日は、鹿児島中央駅周辺、西田、真砂、伊敷、草牟田地区、日曜日は、鹿児島中央駅周辺、真砂、草牟田地区であり特に草牟田地区の減少率が大きかった。

夜間は、2日間とも増加した地区は中央地区で、鹿児島中央駅周辺地区は、2日間とも減少した。また、令和4年の総歩行者通行量と令和6年の総歩行者通行量を比較すると、令和4年と令和6年では5.6%増加した。

3. 地区別の平均通行量

今回調査の地区別の一地点あたり平均通行量をみると、平日、土曜日、日曜日ともに中央地区と鹿児島中央駅周辺地区が多く、両地区の比較では、平日以外は中央地区が多くなっている。（表4参照）

表1 前回調査との比較（地点数）

曜日	増加した地点	増減なしの地点	減少した地点	計
平日	81	0	92	173
土曜日	74	0	99	173
日曜日	112	0	37	149
計	267	0	228	—

(注) 日中から夜間へ連続調査の地点は合計で比較した。

表2 前回調査との比較（地区別）

	日 中		夜 間	
	増 加	減 少	増 加	減 少
平日	上町地区 真砂地区 谷山地区	中央地区 鹿児島中央駅周辺地区 西田地区 騎射場地区 脇田地区 伊敷地区 草牟田地区	中央地区	鹿児島中央駅周辺地区
土曜日	中央地区 上町地区 騎射場地区 脇田地区 谷山地区	鹿児島中央駅周辺地区 西田地区 真砂地区 伊敷地区 草牟田地区	中央地区	鹿児島中央駅周辺地区
日曜日	中央地区 上町地区 西田地区 騎射場地区 脇田地区 伊敷地区 谷山地区	鹿児島中央駅周辺地区 真砂地区 草牟田地区	—	—

表3 総歩行者通行量の推移（日中）

曜日	令和4年	令和6年
平日	246,732	242,001
土曜日	313,536	312,216
日曜日	289,274	342,618

表4 地区別平均歩行者通行量（日中）

曜日	中央 (62地点)	上町 (10地点)	鹿児島中央 駅周辺 (29地点)	西田 (2地点)	騎射場 (6地点)	真砂 (6地点)	脇田 (3地点)	伊敷 (6地点)	草牟田 (6地点)	谷山 (19地点)
平日	2,305	599	2,601	287	561	219	693	282	362	340
土曜日	3,248	569	3,057	313	616	145	742	226	320	307
日曜日	3,846	672	2,826	315	509	126	643	224	357	296